

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和6年12月18日（水）第5校時
荒川区立第四峡田小学校 3年1組24名
授業者 第3学年担任

校内研究のテーマ

自ら課題を見付け、見通しをもって活動する児童の育成

1 単元名

「障がいについてもっと知り隊」（9月～12月）

2 単元の目標

身の回りの障がいについて調べ、障がいをもつ方と交流することを通して障がいをもつ方の暮らしや考え方を理解し、その人の立場になって考えることができる。また、地域には様々な障がいをもつ人々が共に暮らしていることに気付き、障がいの有無にかかわらず平等に接しようとする思いのもと、自己の生き方を考えることができる。

3 単元の評価規準

| 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力 | | |
|---|---|---|
| ①知識及び技能 | ②思考力・判断力・表現力 | ③主体的に学習に取り組む態度 |
| ア 障がいの種類やその特徴について理解している。 イ 各自で調べた障がいに関する情報を共有し、知識を得ている。 ウ 自分たちで交流を開催することによって、障がいをもつ人たちと楽しく過ごすことができたことは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 | ア 障がいについて調べたことから、よりよい交流のために、相手の立場から考えて、自ら課題を設定し、解決に向けた計画を立てることができる。 イ 障がいについて理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選びながら収集している。 ウ 障がいに関する取り組みを進めるために、集めた情報を比較したり関連付けたりしながら、課題の解決について考えている。 エ 障がいについて学んだことを伝えるために、相手や目的に応じて、分かりやすく表現したり、まとめたりしている。 | ア 障がいについて関心をもち、自分自身の生き方を見つめなおし、自分の意志で探究的な学習に取り組もうとしている。 イ 交流した方の話を通して得た知識や自分と異なる友達の考えや取り組みを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ウ 自分たちで計画した活動やそこから学んだことを学校で発信していく活動を通して、障がいについての知識や理解することの大切さを伝えようとしている。 |

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成29年7月）第5章第3節に示された「①横断的・総合的な課題」における、「身の回りの障がいをもつ方の暮らしや支援」を踏まえ、構想したものである。

児童は1学期に社会科見学で障がい者福祉施設を訪れた。エレベーターや自動販売機、新聞といった身の回りの物や人々のコミュニケーションの方法など、様々な違いに気付いた。自分たちが暮らす地域には、障がいをもつ人も多く暮らしている。相手の生活や苦難など知らないことも多い。交流を通して相手を知り、相手に合わせた交流の仕方を試行錯誤することで、自ら課題を見付け、見通しをもって活動する児童の育成を図る。

(2) 児童観

児童は、1学期の社会科見学で障がい者福祉施設の見学を行った際、施設内にある様々なバリアフリーに深い興味・関心を抱き、多くの発見へとつながった。また、施設内にいる人と自主的に交流を行い、筆談をしたり、手話を教わったりしながら交流を楽しんでいる様子が見られた。また、総合的な学習の時間「ホテルの里をつくろう」では、本を用いた調べ学習の仕方や調べたことを自分の言葉でわかりやすくまとめることができた。学習発表会では、班で協力して調べ学習を行い、発表資料や発表台本の作成を行った。児童は、低学年にもわかりやすいよう工夫するなど、相手意識をもった学習に取り組むことができる。今回は、社会科見学で行った交流を、自分たちが主体となって計画して取り組む活動とすることで、自ら意欲的に課題を見付け、探究活動に取り組めるようにする。

(3) 教材観

本単元は、障がい者福祉施設で施設の方と交流した楽しい思い出や経験をきっかけとして始まり、障がいについて調べたり、障がいをもつ方と交流したりする活動を通して、知ったこと、感じたことを模造紙やスライドにまとめるといった内容である。児童が、交流と課題解決のサイクルを繰り返すことで、自ら課題を見付け、見通しをもって活動するだけでなく、交流を通して、障がいをもつ人に対する理解を深めることで、児童が障がいの有無に関わらず平等に接しようとする意識の成長が期待できる教材だと考える。

5 研究主題に迫るための手立て

視点① 児童が自ら課題を見付けることができる単元計画

- ・児童の「もっと知りたい」という思いを高めるために、社会科見学で障がいをもつ方との楽しい思い出や施設で見付けたバリアフリーへの関心を想起させる。
- ・児童が、自ら視覚や聴覚を抑えることで、相手の立場となって課題を見付け、その解決方法に気付くことができる。
- ・児童が広い視野で考えを深めるために、異なる種類の障がいをもつ方と交流したグループの間で意見交流をする。

視点② 児童が見通しをもって学習に取り組むための手立て

- ・授業の振り返りと、本時のめあてを児童が自ら設定するような授業を行うことで、授業に受け身とならず、見通しをもって学習に取り組めるようにする。
- ・児童が自らのやるべきことを明確に認識するために、交流と課題解決のサイクルを繰り返す単元計画を立てる。

6 3年1組の単元の活動計画（全20時間）

| | | | |
|-------|---|---|---------|
| 児童の実態 | <ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習に意欲的に取り組むことができる。 ・他者に伝える活動において自信をもって取り組むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学で、地域の人々との楽しい交流の思い出から想起させる。 ・招待し、交流するという目的をもたせることで、自分事として深く捉えさせる。 | きっかけの工夫 |
|-------|---|---|---------|

単元に向かう思いや願い 障がいをもつ人について、もっと知りたい。



| 小単元名（時数） | ○主な学習活動 | ●予想される思考や気付き ◇次の小単元につながる思考や気付き |
|---------------------|--|---|
| 障がいについて知ろう (4) | <p>【情】学習の見通しをもつ。</p> <p>【整】障がいに関する情報を集め、整理する。</p> <p>【ま】調べたことを学級内で共有する。</p> <p>【課】相手の事情に合わせた交流の仕方や遊びを考えるという課題を設定する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人と仲良くしたい。 ・身の回りにはどんな障がいをもつ人たちがいるのかな。 <p>☆その人の立場になって考えよう。</p> <p>評価規準 ①ア・②ア・②イ・③ア</p> |
| 第一回模擬交流会をしよう (3) | <p>【情】相手のできることやできないことを捉える。</p> <p>【整】集めた意見を整理し、交流や遊びの方法を考える、</p> <p>【ま】模擬交流を行い、課題をまとめる。</p> <p>【課】課題の解決を目的とした工夫を施し、交流や遊びを改善する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分達で目や耳をふさいでやってみよう。 ・手話を使ったゲームはお互いが楽しめそう！ <p>☆もっと相手のことを考えた遊びやルールを工夫しよう。</p> <p>評価規準 ①イ・②イ・②ウ・③イ</p> |
| 第二回模擬交流会をしよう (3) | <p>【情】課題の改善に向けた挨拶や遊びを設定する。</p> <p>【整】相手の立場になって、交流や遊びの確認をする。</p> <p>【ま】模擬交流を行い、課題をまとめる。</p> <p>【課】課題の解決を目的とした工夫を施し、交流や遊びを改善する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・目の見えない人は誰と話しているのか分からないね。 ・自己紹介は手話でやろう。 ・足だけじゃなくて、手が不自由だった場合も考えよう。 <p>評価規準 ①イ・②イ・②ウ・③イ</p> |
| 交流会をしよう (3) | <p>【情】課題の改善に向けた挨拶や遊びを設定する。</p> <p>【整】相手の立場になって、交流や遊びの確認をする。</p> <p>【ま】交流会を行い、課題をまとめる。</p> <p>【課】交流を通して、学んだこと、感じたこと、自分の生き方などを考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・普段どういった遊びをしているのだろう。 ・通訳さんがいなければ伝わらなかったことが多かった。 <p>☆楽しかった。多くのことを知ることができた。</p> <p>評価規準 ①イ・②イ・②ウ・③イ</p> |
| 交流会を終えて (3) | <p>【情】交流を終えて学んだことを話し合う。</p> <p>【整】交流会で学んだことを整理する。</p> <p>【ま】学んだことをまとめ、次時の課題を見付ける。</p> <p>【課】交流から学んだことをどのように生かすかという課題を設定する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・うまく伝わらないことがあった。 ・知らないことがたくさんあった。 ・他の学年やクラスにも伝えたい。 <p>☆ポスターを作ろう。</p> <p>評価規準 ①イ・②ウ・③ウ</p> |
| 学んだことを生かそう (4) | <p>【情】班で話し合い、伝えたい情報を共有する。</p> <p>【整】伝える情報の取捨選択を行い、まとめる。</p> <p>【ま】発表会をする。（本時）</p> <p>【ま】単元のまとめを行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・耳が聞こえないってこんなに苦労することがあるんだね。 <p>評価規準 ①ウ・②ウ・②エ・③ウ</p> |



単元の終わりまでに育ってほしい姿

- ・障がいの有無に関係なく平等に関係を築ける。
- ・障がいについて知り、すすんで相手を理解しようと努める。

7 本時の活動計画（19 / 20）

（1）本時の目標

- ・交流した方の話を通して学んだことを伝え合い、自分の考えを広げることができる。【思考力・判断力・表現力】

（2）本時の展開

| ○児童の主な学習活動 分 ・予想される児童の思いや考え | □教師の支援 ☆評価規準（対象）【観点】 |
|--|---|
| <p>○前時までを振り返り、本時のめあてを確認する。 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいについてたくさん調べた。 ・自分たちで目や耳を抑える体験をした。 ・交流会で多くの話が聞けた。 <p>○めあてと学習の流れを確認する。 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表と自分たちの発表を比べたい。 ・他の班がどんな遊びや工夫をしたのかを知るのが楽しみ。 ・他の障がいについてもたくさん知りたい。 | <p>□自分たちが、どういった思いで本時まで学習してきたのかを振り返ることで、めあてを明確に想起できるようにする。</p> <p>□振り返りは児童が主体となって行う。また、振り返りを通して児童が今日のめあてを考えるようにする。</p> <p>□めあての内容に沿って、本時の見通しを児童が考えることができるようにする。</p> |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 友達の発表を聞いて、感想を伝えよう。 </div> | |
| <p>○発表の仕方を確認し、グループごとに発表する。 2 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点字で自分や道具の名札を作ったのはいい工夫だね。 ・身の回りには障がいをもつ人のためにこんなに多くの工夫があったんだね。 ・目が見えない人の暮らしてこんなに大変なんだね。 | <p>□机といすは授業前に教室外へ運び、児童は探検ボードとワークシート、筆記用具を持ち、座って話を聞くようにする。</p> <p>□1グループずつ発表を行い、他の児童は発表を聞くことに専念できるようにする。</p> <p>□発表時間は準備を含め1グループ4分を設定する。</p> <p>□発表中や入れ替え時はワークシートに書くことはせず、話を聞くことに集中できるようにする。</p> |
| <p>○感想や意見をまとめ、発表する。 1 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目の見えない人の暮らしがこんなに大変だなんて知らなかった。 ・この班の考えた工夫がとてもいいね。 <p>○次々の見通しをもつ。 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいをもつ人のために自分たちは何ができるだろう。 | <p>□感想を発表する前に、思ったこと、感じたことをワークシートに記入する時間をとる。</p> <p>□次時への見通しをもった状態で振り返りを行うことができるように声を掛ける。</p> <p>☆友達の説明を聞き、分かった事や説明の仕方について感想を述べている。</p> <p style="text-align: right;">【思考力・判断力・表現力】</p> |

8 グループ協議、協議報告

- A:①誰に何を伝えたかったのかが明確になっていなかったように感じた。単元の前半で終末のイメージを整理分析しておくことができるとよかった。
②本時の目標、めあて、評価がずれていた。
③各グループの発表方法によって見やすさが異なっていた。
- B:①単元のねらいと児童の感想にずれがあった。
②発表の仕方や視点を見直す。「上手くいったこと」「上手くできなかったこと」「どうしてだろう」をヒントに自分事として捉えられるのではないか。
- C:①交流会のことを伝えたいという思いを強くもち意欲的に取り組むことができていたが、自ら課題を見付けるという視点では見直す必要があるように感じた。
②交流会で実演があれば、本時のねらいに近づくことができたのではないか。
- D:①模擬交流を行うことで、児童が課題を見付けるよい機会となっていた。
②交流会をゴールとしてとらえる児童がいたのではないか、児童がその先を見据えることができる工夫が本時の中でもあればよかった。

○講師講評（講師：台東区教育委員会 指導課 指導主事 松村 英治先生）

<目標と評価規準>

最後にどんなことを考えてほしいかイメージしておく必要がある。（具体性）

単元全体を通して目標や評価規準がぶれないようにする。（一貫性）

今までとどんなことが変わったのか。細かい課題設定やサイクルをしっかりとっていないと子供とも一致しない部分が増えていってしまう。（提案性）

単元の目標の三つの柱が行ったり来たりしてしまっている。

指導案の単元観の部分に探究課題が設定されている。

概念的な知識の獲得＝本単元における物事の本質

構成概念（多様性、公平性、相互性、連携性、有限性、責任性、独創性、協働性、創造性）の中から、どの切り口で学習を進めていくのか定めておくことでぶれのない授業を行うことができる。

この単元では多様性や公平性があるとよい。

<単元計画について>

サイクルを作る中で単元の導入として施設にはどのような人がいて何をしているのかを実際に行ってみたり写真で見せたりするとよい。その後、そこで出た感想や疑問を基に活動のアイデアを出し合い交流に向けた準備を第2サイクル以降で進める。交流を終えるごとに動画などで振り返り、次の課題設定をする。単元のまとめとして相手に手紙などで感謝を伝えるような活動をするるとよい。

9 成果と課題

<成果>

- ・児童がそれぞれの成果を上手に伝え合うことができていた。
- ・児童は本時に至るまで、目的意識をもって計画を考えることができていた。自分事として考えることができた。
- ・「うまくいかなかったこと」を次の課題として設定し、考えることができていた。

<課題>

- ・児童の「やりたい」を引き出すために、導入で児童が話し合う時間や意見を発表する時間をもっと長くとることで、単元のゴールを明確にし、クラスで共有することができるとよかった。
- ・単元のねらいと児童の感想にズレが生じてしまった。
- ・児童が交流会に向けて努力することができていた反面で、交流会を目的としてとらえてしまっていた。